

第3章 今後の課題と必要性

ここでは、「本市の図書サービスをめぐる課題」として、本市の現状と急速に変化する社会環境に視点をおき、この「課題に向けて」の考え方を示す。

1 本市の図書サービスをめぐる課題

(1) 基本的サービスへの対応

現代の公共図書館は、より多様で高度なサービスを求める利用者のニーズの変化に応える形で、高機能化した大規模な滞在型図書館として進化をみせ、これと並行し、児童書、新刊図書の貸出を中心に、利用者の数を飛躍的に伸ばしている。

本市においては、これまでのコンピュータ図書オンラインシステムによるネットワークサービスに加え、図書館としての基本的サービスをまず充実させる必要がある。

- ・適切なサービスを提供できる規模の図書館の設置
- ・貸出利用の拡大
- ・レファレンスサービスの充実
- ・他の図書館及びその他関係機関との連携協力
- ・職員の能力・資質の向上 等

(2) 生活圏の拡大への対応

長崎市を核とし、生活圏が拡大するなかで、地域経済の一体化と住民の日常的な交流が市域の枠を越えて形成されており、近隣町との合併の検討も進んでいる。

このような地域社会の変化に応じて、合併を含む地域間の連携を一層強化していくなかで、新たな図書サービスの可能性を創り出し、高度化と効率的な基盤整備に取り組む必要がある。

(3) 高度情報社会への対応

近年、コンピュータの高機能化とその利用技術の進展により、地域独自の情報内容の生成が容易になり、地域から発信する情報も多様化し、これら地域情報の積極的な利用により、人々の生活がより豊かなものになってきている。

また、インターネット利用の爆発的増大に伴い、人々の情報収集活動はグローバル化し、知的活動も活発化している。

一方で、市民の情報格差(デジタルデバイド)の問題も心配されており、この害を被らないよう、また、市民の情報収集活動に的確に応えるためには、既存の図書館資料の電子化・データベース(情報の整理・蓄積)化、地域資料のデジタル化保存や新しい電子資料の収集・蓄積・保存を進めることが求められる。併せて、社会的基盤、高度情報化など、新しい情報通信技術の導入・活用を積極的に進め、グローバルな情報入手も可能とし、これらをより利用しやすい形で提供する必要がある。

(4) 高齢社会への対応

急速に進展する高齢化に対応するため、高齢者・障害者等にも配慮した構造の施設整備や、高齢者利用のための設備等の適切な整備が必要である。

また、関係機関、ボランティア団体等との連携を図りながら、高齢者・障害者の立場に立ったきめ細やかなサービスの拡充が望まれる。

(5) 国際化への対応

近年、広範な分野において国際化が進んでおり、その中で市立図書館は、本市に在留する外国人のための、外国資料の収集・提供やレファレンスサービスの充実が期待されるとともに、市民が国際理解や異文化に対する理解を深めたり、世界の国々の異なる文化を持つ人々と共生していくための資質や能力を身につけられるよう、諸外国の資料を豊富に収集・提供していく必要がある。

(6) 環境問題への対応

近年、地球温暖化に代表される地球環境問題が顕在化しており、持続的な発展が可能な循環型社会の構築が求められている。図書館整備にあたっては、環境への負荷を考慮し、省エネルギー化に努めるとともに、敷地に緑を配し、周辺の熱負荷を抑えるとともに、癒しと落ち着きのある都市空間を創る必要がある。

2 課題に向けて

長崎市はこれまで、公共図書館が未整備なうえ、閉鎖的な地理的要因から、図書ネットワークサービスを充実させ、市民の読書活動の普及・推進を図ってきたが、地方分権社会、生涯学習社会の進展などの時代の要請に対し、将来の発展につながる図書館としての施設、機能・サービスによる十分な対応が、より強く求められる状況になっている。

また、知的活動が多様化、高度化するなか、生活圏の拡大・情報化・国際化・高齢化など、社会が急速に変化している。特に、新しい情報通信技術の開発・普及は、これまでのサービスの媒体、手法などにおいて見直しをせまる動きにあり、すべての公共図書館が、このような社会変化について適切に対応すべき課題として直面している。

しかし、このことは、一方で、これら社会変化を念頭に、新たなサービスを展開していくうえで、これから図書館を整備する本市にとっては、好機であり、既存の施設で対応するより優位であるという認識にたち、現代・将来世代を通じて、市民が利用しやすく、魅力ある図書館整備を図り、豊かなサービスを提供できる空間・機能を創っていくこととする。